

# 僕のサイクリング

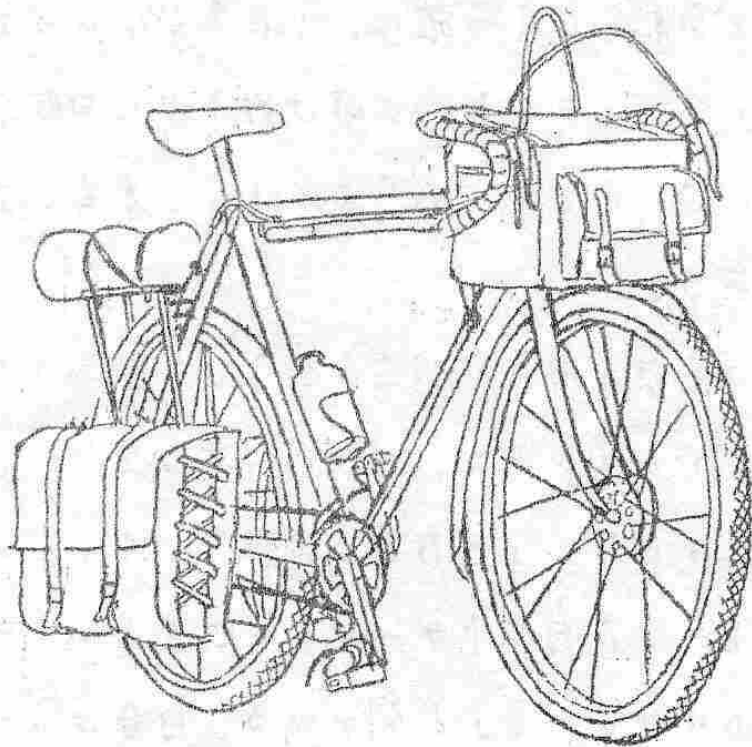
西口正之

僕がサイクリングを始めたのは、高2の夏からである。クラスの友人に勧められて輸行車を買って、信州のビーナスラインへとサイクリングに出かけたのが、そもそもの始まりである。霧ヶ峰高原から見渡した景色の素晴らしさは、今でも忘れることができない。それ以来、サイクリングというものの味をしめてしまって今日に至ったわけである。自分の足のカで登った峠や山から、景色をながめるときの喜びは、何ものにもかえ難い。車や電車や他の力を借りず、自分の力だけで目的地に行くのである。輸行は、してもいいのはあはあと息を切らして、時には自転車を押して、それでも景色をながめながら、登るのが僕は好きだ。どんなに辛くても景色だけは見る(意識的に)ようにしている。なぜなら、それだけ僕のサイクリングの目的だからである。思い切りやぐら踏んでスピードを楽しむのもいい。しかし僕の場合は、ゆっくりと自分のペースで走りながら、景色を楽しむのが一番好きだ。疲れたら休み、気が向いたら又乗り、をくり返しながら走れる所まで走る。というのが理想である。合宿などでは、そういうわけにいかないだろうが、それはそれで又別の面白さがあるし、風景を楽しむことだっていくらでもできる。今年の夏合宿で、特に印象に残っているのは、合宿初日にキャンプを張った、津軽半島の日本海側に面した所にある出来島という海岸で見た日没の美し

式である。左の端から右の端まで海が100%広がっているのである。  
水平線がくっきりと見えて、そこには太陽が没してゆくのである。  
全く絵に描いたような風景であった。本来島では、もう1つ思い出  
がある。夜、蚊に悩まされて、ほかほか眠れなかつたことであ  
る。蚊とり線香をものともせず、テントの中へ侵入してくる蚊  
の群れには本当にまいった。シユラフに入ると暑くて汗が夕ラ夕  
ラと出てくるし、シユラフから出ると蚊に刺されて虫血が痒(?)で  
死んでしまう程であった。外へ出て海岸でシユラフに入って寝た  
先輩もいたけれど、僕は結局テントの中で蚊とり線香を3個ぐら  
いたいて寝たのである。こんな事も、あとに振り返って考えると  
面白い思い出である。もう1つ合宿で印象深かった景色は、下北  
半島のつけねの太平洋側から陸奥湾側へ横切る道である。回りは  
ずっと高原の牧草地帯であった。ちょうど僕達が走っているとき  
小雨が降っていたのである。雨がやんで夕日が見えはじめた時だ  
ある。真赤な夕日が濡れた路面にキラキラと反射してまるで夢の  
世界であった。(あつとオーバーか？ いやいやオーバーではな  
いのである。) この景色は僕の網膜にしっかりと焼きついて、一生消  
えることはないだろう。こんなわけ僕がサイクリングの楽しさ  
を合宿で存分に味わいました。今思い出しても、合宿はおもしろ  
いことばかりだったと思う。班のメンバー構成が僕にあって  
いたということもあると思う。ステートを築きお人よりも、景色  
を築きお人の方かかったのだと思う。そのことは僕にとって、お

る意味では幸運だったと言えるだろう。

今後も、無理をしないう。自分のサイクリングというものを楽し  
んでゆきたい。



つかれた？